

ひだご坊真宗教化センターだより 2021年7月号

発行日:2021(令和3)年6月29日 第12号 発行者:飛騨御坊真宗教化センター長・高山別院輪番 三島多聞

高山市鉄砲町6 Tel 0577-32-0776 web <http://hidagobo.jp> ✉ takayama@higashihonganji.or.jp

真宗の教化 — 如来の御仏事を担う —

高山地区教化研究所（以下教研）の前所長、四衢亮氏が以前、「ここが教学研究所でなく、教化研究所として設置された意義を考えてください」と言われたことが今も強く印象に残っている。あらためて教研の規則を確認すると、第1条の（目的）では次のように明記されている。

高山地区教化研究所は、時代社会の要請に応じて、真宗の実践教学の研究を目的とする。

教研が目的とする真宗教学の研究は、単なる思想文献の解明ではなく、「時代社会の要請に応え」る「実践」を伴ったもの、すなわち教化と不離であることがここに押さえられている。

この教化ということについて親鸞の姿勢をたずねるとき、次の述懐が思い起こされる。

如来の教法を、十方衆生にとききかしむるときは、ただ如来の御代官をもう

しつるばかりなり。さらに親鸞めずらしき法をもひろめず、如来の教法をわれも信じ、ひとにもおしえきかしむるばかりなり。

（『御文』第一帖一通・『聖典』760頁）

ここに、真宗の仏道における教化の主体はどこまでも如来であることが確かめられる。すなわち、僧俗の区別なく教法を聞信することが肝要であり、僧侶の教化者意識を厳しく戒められるのである。

しかし一方で、「如来の御代官」という表現には、単なる卑謙の意ではなく、無上の仏道に出遇えたという親鸞の確信と、それゆえに自ら「如来の御仏事を担う」者として仏道を歩む、という如来の本願への応答責任を感じとられる。この述懐を読むとき、はたして私はこのように確信し、応答責任を自覚して「教化」に携わっているだろうか、と問わずにはおれない。

現在教研に所属する人たちには、日々それぞれの教化の場がある。その多くは月参りや年忌などの法要や葬儀など、いわば与えられた場である。また定例法座など自発的に設ける場も、そこに集う人がいるから

こそ成り立つ場である。このように勤行や法話をする場が確保され、ともに念仏し法話を聞く人がいる中、私たちはどれだけその眼前の機会の意味をたずね、大切にしているだろうか。

念仏申し、正信偈を勤め、法話をし、ともに語らう。平生の法務で何気なくしている、その一つひとつがまさしく如来の教化であり、それぞれの法器を通して如来の御仏事を担っていることを、私たちはよくよく心得るべきである。

このことを根底に、今年度の高山地区教化研究所では、以下の取り組みを行っていく。

1. 『正信偈同朋唱和集』をテキストに、具体的な場を想定した法話実習と合評、座談
2. 法話実習を承けての「正信偈」講義、座談
3. 日々携わる法務において惹起する諸課題の発表、座談（以上定例）
4. 『女性史に学ぶ学習資料集』（東本願寺出版）をテキストとした、外部講師による講義

高山地区教化研究所

所長 三木朋哉



★センター・別院からのお知らせ★

※各行事は、コロナ感染症の状況により中止や変更になる場合があります。

第8回企画会議・センター総会・組長懇談会(報告)

【第8回企画会議（6月1日開催）】 各組との連動強化を！

新年度センター総会に向けて、2020年度事業報告、2021年度事業計画及びセンター予算のとりまとめを行う。

その中で、センター委員の任期（3年）を一期として捉え、3年間で事業展開を考えていく形をとっていくことも確認された。これにより新年度については、「第1期ご坊センター体制2年目」と位置づけ事業展開がはかられることとなる。

新年度事業計画の指針及び概要について、センター理念として掲げられた三本柱を中心に組み立てていくが、特に「帰敬式」「同朋唱和」について、その具体的な実施計画を第1期ご坊センター体制中に確立することが示された。

また、センター三本柱の推進にあたっては、各組との連動をもって取り組むことの重要性が確認された。

【御坊センター総会（6月23日開催）】 第1期御坊センター体制

センター総会において、事業報告及びセンター会計報告、新年度事業計画及び予算案が提示され承認された。

なお、会議冒頭において、三島センター長から、「第1期ご坊センター体制」の設定、帰敬式及び同朋唱和の実施計画の策定推進についての表明があった。

【御坊センター組長懇談会（6月25日開催）】

各組との連動をはかるため、今回は特に組門徒会研修について懇談会を持った。必要に応じてセンター組長懇談会の開催を確認。

飛騨学場・ご坊夏の暁天講座(8月1日～5日)

【飛騨学場】 午前9時～ 会場:御坊会館

本講 1～3日 藤場俊基氏 「仏教と人間③ 一未法灯明記一」

次講 4～5日 草野頭之氏 「飛騨と蓮如上人」

【暁天講座】 午前6時半～ 会場:別院本堂

1日 藤場俊基氏 「念仏の音が聞こえる関係 一真宗門徒の原風景一」

2日 輪 番 「死と再生」

3日 中村隆夫氏 「めでた雑考」

4日 草野頭之氏 「親鸞聖人の伝承」 ※5日の開催はありません。

ごぼう夏のつどい（青少幼年部会）

飛騨御坊からの挑戦状！

飛騨御坊からの挑戦状
7月26日(月) 抽選券 500円
第1部 10:00～12:00
リアルプラトーン
ごぼうハンターをやっつけろ！
対象:小学1年生～3年生
第2部 14:00～16:00
リアル脱出ゲーム
ごぼうのナゾをときあかせ！
対象:小学4年生～6年生
募集:各30名
詳細・申込みはこちら

7月26日(月)午前・午後の二部制

昨年は開催できませんでしたが、今年は定員を少なくして「ごぼう夏のつどい」を開催いたします。

また、年齢ごとに第一部・第二部に分け、コロナ対応、年齢にあった内容により開催します。

※詳細は『ひだご坊』(7月1日発行)を参照ください。
※コロナ等の状況により中止する場合は、参加者に直接連絡いたします。

＜死と再生＞

【『勸衆偈』は『帰三宝偈』とも言う】

出棺勤行は誰が勤めるのか、それは亡くなった人が勤める。亡くなった本人に代わって住職がお勤めするのが出棺勤行。従って、葬式とは何かといえば、亡くなった者がお参りされた方に「帰依三宝」を勤めるとのこと。亡き人が「帰依三宝」を宣言する場所が葬式である。俺はこんなふうで死んでいく。ついては、集まった家族や有縁の者よ、ともに阿弥陀様に帰依しようではないか。ともに念仏の教えを聞こうではないか。念仏を勤めあってともにたすかっているのではないかと。

従って、「お父さん亡くなって、帰敬式を受けて法名もらう」という人がおられる。ちゃんと本能的にそれが伝わっている。大事な身内の死は、この私に「帰依三宝」を勤めておるんだと、仏法のことを何も知らなくても、ちゃんと本能として本願がはたらいている。

■「いのちの願い」と「死と再生」

「葬儀は帰敬式である」というのは何において言っているのか。そこには「いのちの願い」があるということを押さえていきたい。

いのちの深いところでは、いつも「いのちの願い」を問いつけている。そして何かの節目に、いのちの願いを形(具体的には「式」「集い」「祝い」)で表現している。その節目の形に「いのちの願い」を伝えている。願い伝える内容を総合的に一言

で表現すれば「死と再生」である。「死と再生」の「死」ということは、別に言えば「別れ・去る・出る・止める・捨てる」などの言葉にあたる。

ここで、身近に私たちが経験してきた節目の式を振り返ってみる。

【**出産祝い**】私たちは母の「胎内」を出て、この世界に生まれてきた。10カ月経て胎内を捨てて、新しい明るいこの世を願って生まれてきた。いわば「死と再生」だ。なぜ一番安全な胎内を出たいと願ったのか。それは両親の願いを受けて、両親の愛に添えて、胎内を出る力にしたからでしょう。生まれる前から、赤ちゃんの名前まで考え用意して待っているその願いに応え、受けとめてもらえることを期待し願って生まれてきた。

【**卒業式・入学式**】年長の園児は、早く小学生になりたくてウキウキしている。小学生から中学生になる時は、しっかり新しい世界を意識している。早く上級の学校へ入学したいと願っている。だから卒業できるよう、そして入学できるよう一生懸命頑張る。頑張って「死と再生」を願っている。

【**成人式**】保護されていた状態から独立し、社会人として責任を負う。大人になるのも、いわば「死と再生」。未成年状態から出て、成人として認められる大人への宣言。自治体まで祝っている。

【**結婚式**】独身の生活を終え、よき伴侶と共に新しい生活をするという宣言の式。これもいわば「死と再生」。新しい人生の出発を願ういのちと、それを祝福する縁者友人のいのちの願いが、結婚式という形をとっている。

【**新築祝い**】昔から住んでいた家を解体し新築するのも、いわば「死と再生」。ずっと住み慣れた家で名残惜しくとも、新しい生活を願うために旧家を捨て新たな家を建てる。

■生死甚だ厭い難く、仏法また欣い難し

私たちは、いろいろな「式・集い・祝い」を通して門出を体験し、その都度「いのちの願い」を学習し、「死と再生」に出遇ってきた。そしてその最後が「葬式」となる。この葬式が「死と再生」となっているのか。喪主が「生前中はお世話になりました」と挨拶する。生前中とは、故人が浄土に往生される前の、この世ではお世話になりましたの意味。見事な「死と再生」。故人も喪主もここをはっきりしていないと、人生のいろいろの節目から何も学んでいないことになる。次の言葉が思い出される。

老いは他人事という 若さのおごり
病気は他人事という 健康のおごり
死は他人事という いのちのおごり

考えさせられる言葉だ。「おごり」と言われるが、これは私たちの「日常」が、「人と生まれた者であれば誰一人としてもれなく「生老病死」を生きている」のだということを見ず、さらに「自分自身が「生老病死」する者であるという当事者意識さえも見失っている状態」であることを言い当てているように聞こえる。まさに「生死甚だ厭い難く、仏法また欣い難し」である。

一口法話 web ひだご坊で配信中！

7月1日から31日のお話 <https://hidagobo.jp/>

- 三島 多聞氏 (高山別院輪番)
- 白尾 公信氏 (高山二組 了心寺住職)
- 窪田 純氏 (高山二組 圓徳寺住職)
- 岩佐 幾代氏 (吉城組 浄永寺坊守)

※印刷したものの郵送をご希望の方は、教務支所までご一報ください。

「高山市民時報」ミニ法話「響」連載中

新刊書

ひと ひと 『女と男のナムアミダブツ』 価格:800円

『ひだご坊』紙の「家族で語ろう」で、藤場芳子さん(金沢教区・常讃寺副住職)に連載(2013年12月~2018年9月)いただいた文章をまとめ、冊子として発行しました。

本書から感じた「問い」や「課題」を、大切な「ひと」と共有し、語り合ってみてください。

※酒井義一さんの連載、『私を照らすひかりの言葉』も販売しております。お寺の同朋会や学習会のテキストとしてご活用いただければ幸いです。



飛騨御坊真宗教化センター・高山別院 2021年7月行事予定

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院	会場
1	木			
2	金		教務支所事務休止	
3	土	13:00	別 三日のご坊 法話:畑 亮徳氏(願徳寺住職)	本堂
4	日			
5	月	13:30 7:00	七 教化委員会総会 別 半日華	研修室
6	火	13:30	帰敬式実行委員会	研修室
7	水			
8	木	13:00	別 院議会	御坊会館
9	金			
10	土			
11	日	13:00	別 大谷婦人会定例 法話:輪番(中止)	
12	月			
13	火	7:00	別 前住上人ご命日	本堂
14	水	14:00 15:00	教 教区財務委員会 教 参事会・常任委員会	研修室 研修室
15	木	7:00	別 半日華	
16	金			
17	土			
18	日			
19	月			

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院	会場
20	火	13:30	教 教区会	
21	水	14:00 15:30頃 14:00	教 教区門徒会 教 高山地区組門徒会長会 組 高山一組真宗の会公開講座(講師:廣瀬 惺氏)	
22	木			
23	金			
24		9:00	別 おみがき	本堂
25	日	7:00	別 半日華	
26	月	10:00	七 ごぼう夏の集い 教 教区坊守会委員会	高山別院 郡上 安養寺
27	火	13:00 13:30	別 親鸞聖人お逮夜 組 二組門徒会総会・研修会	本堂 研修室
28	水	13:00	別 親鸞聖人御命日 法話:江馬 雅臣氏(賢誓寺副住職)	本堂
29	木	14:00 19:00	教 正副組長会・組門徒会長会(リモート) 教 教化研究所	研修室 研修室
30	金			
31	土			

8月 ※15日ごろまでの掲載とし、定例行事は省きます。

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院	日	曜	時間	ご坊センター・高山別院
1	日	9:00	学場(藤場) 暁天講座(6:30)	4	水	9:00	学場(草野) 暁天講座(6:30)
2	月	9:00	学場(藤場) 暁天講座(6:30)	5	木	9:00	学場(草野) 暁天講座(無し)
3	火	9:00	学場(藤場) 暁天講座(6:30)				